Q1－1　面接時には、どのような内容を確認すればよいですか。

A　帰国・外国人児童生徒が一日も早く学校生活に適応するよう、面接時に児童生徒の多様な背景を理解するため、次のことを確認しましょう。

確認しておくとよいこと	伝えておくとよいこと
□　家族構成 （家族の状況などについて確認しておきましょう）	□　教育課程 （これまでに学習してきた国との違いを確認しましょう。高等学校等への進学なども踏まえ、しっかり学習しないと後で困ることなどを伝える必要があります）
□　家庭での言語や宗教等、生活文化の状況 （主に使う言語や生活、文化について確認しましょう）	□　学校生活の様子と生活の時間帯 （主な一日の流れと年間の見通し、学校行事を伝えましょう）
□　教育歴 （日本に来る前の最終学年を確実に把握するとよいでしょう）	□　当面の学習 （教科ごとに所属予定のクラスの学習内容を伝えましょう）
□　学習状況 （学力や家庭での学習状況、教科の不得意などを確認しましょう）	□　準備するものや購入するもの、学校に持ってきてはいけないもの （実物や写真で示し、購入先を伝えましょう）
□　日本語の習得状況 （保護者も含め、どの程度日本語で理解できるかを確認しましょう）	□　通学の方法 （安全マップなどを活用して登下校時の危険な箇所を伝えましょう）
□　健康の状況 （持病やアレルギーの有無などについて確認しましょう）	□　昼食 （給食であればメニューや費用、給食ナプキンなど必要なもの、配膳などについて、弁当であれば一般的な弁当の内容を伝えましょう）
□　趣味等 （得意なことや興味のあることについて確認しましょう）	□　集金方法等 （毎月の納入金額や納入方法を伝えましょう。就学援助の制度などについても説明しましょう）
□　滞在予定期間 （日本の滞在期間について確認しましょう）	□　今後の連絡方法 （今後の連絡方法や連絡手段について確認しましょう）
□　進路の希望等 （将来の夢や高校への進学希望などについて確認しましょう）	
□　緊急時の連絡先、連絡場所、連絡手段 （支援者、仲介者、通訳・協力できる人も確認しましょう）	

写真や映像などを活用し、学校生活について具体的なイメージがもてるようにします。

学校側の言いたいことだけではなく、保護者の言いたいことを十分に聞き取ることが必要です。保護者が日本の学校に何を期待しているのか、子どもの教育をどう考えているのかをじっくり聞くことで、学校に対する信頼感を高めていただけるようにしましょう。

面接時のポイント

- **教育委員会**：通訳人材の確保等、受入体制の整備を支援する。
- **管理職**：全教職員で取り組む協力体制を構築する。（学級担任を孤立させない）必要に応じて日本語指導担当、栄養教諭、事務職員等も同席する。
- **学級担任**：他の教員や家庭、地域と連携し、面接で得た情報を生かした適切な支援をする。

Q1－2　学級担任として、受入れ時に、どのような配慮が必要ですか。

A　帰国・外国人児童生徒の教育歴は、出身国や同国内でも地域によって大変多様化しています。面接で確認した内容を参考にして、受入れの準備と学級の児童生徒との人間関係づくりを進めることが大切です。帰国・外国人児童生徒が一日も早く学校生活に適応するよう、次の取組をすすめましょう。

必要な物を準備しましょう。

面接で対象児童生徒の状況を把握したら、必要な物を用意します。

＜例＞靴箱、座席、ロッカーの割当
指導要録、出席簿等の書類の作成
名前（呼び名）の確認
母国に関する地図などの掲示や本、辞書等の配置
登校初日の持ち物、それ以降に必要な物のリストの作成
校舎案内図　等

すぐに学用品の準備をすることが難しい場合もあるので、ランドセルや鍵盤ハーモニカ、絵の具、制服などをリサイクル等で用意できるようにしておくのも必要な配慮の一つです。

クラスの児童生徒の理解を促す工夫をしましょう。

日本の学校に編入する帰国・外国人児童生徒は、不安な気持ちを抱えています。言葉も文化も生活習慣も違う世界に一人で飛び込むようなもので、編入当時は、緊張の連続でストレスを感じているかもしれません。緊張を和らげ、本来の自分をクラスの中で発揮できるようにしてあげることが大切です。ただし、性急な取組は逆に児童生徒のストレスにつながる恐れもありますので、ゆっくりと様子を見ながら受け入れましょう。

＜例＞・対象児童生徒のいた国のこと、生活のこと、食事や友達のことなど、現地での体験談を聞く時間を設ける。
・対象児童生徒が話したがらない場合は、保護者と連携をとって進めていく。

編入前に、クラスの子どもたちと、入ってくる子どもの国の挨拶を練習し、みんなで、その国の挨拶で迎えることも、不安な気持ちをやわらげる上で効果的です。

何より、教師自身が、帰国・外国人児童生徒のこれまで生活してきた国の文化や習慣等を素晴らしいものと認め、受容的な態度をクラスの児童生徒の前で示すことが大切です。

保護者への連絡・協力・働き掛けを進めましょう。

参照：Q1-3, 4

保護者との連絡について確認しておくことが大切です。

＜例＞連絡手段、連絡の取れる時間帯、仕事の時間帯
　　間に入って連絡をしてくれる人、緊急時の対応　等

また、児童生徒に伝えた日々の連絡事項が、保護者にも確実に伝わるよう留意する必要があります。

＜例＞重要なプリントは、封筒に入れて渡す。
　　プリントの重要な部分に「★」や「❤」、「important」等を付す。

教職員間で共通理解を図りましょう。

児童生徒の状況や指導上留意すべき事柄について、適宜、連絡や報告を行い、教職員間で共通理解を図ります。

【道内の実践】

「日本語指導通信」による教職員の共通理解の取組

道内では、日本語指導教員が、日本語指導の基本、学校生活への適応などについて、教職員で共通理解したい内容を「日本語指導通信」として定期的に発行し、全教職員で帰国・外国人児童生徒への指導に取り組んでいる学校があります。

Q1－3　外国人保護者との連絡はどのようにすればよいですか。

A　「外国人保護者が日本語を上手に話せないので連絡が取れない。」、「電話では伝えたいことがなかなか伝わらない。」、「提出物が期日までに提出されない。連絡のおたよりを読んでくれているだろうか。」など、外国人保護者との連絡について困っていることがあるのではないでしょうか。

外国人保護者との連絡については、地域や職場で間に入って連絡をしてくれる人を決めておくなど、確実な連絡方法を確認する必要があります。また、連絡方法について、具体的に外国人保護者に伝えるなどして安心感を与え、信頼関係を築くことも大切です。

どんな連絡方法がよいか、外国人保護者と相談しましょう。

文書を渡す際にどのような手助けがあるとよいか、文書以外に希望する連絡方法があるかなど、保護者に必要な情報が確実に伝わる方法を確認しましょう。

電話より FAX やメールでの連絡の方が伝わりやすい場合も考えられます。

相手の国の簡単なあいさつや単語を勉強してみましょう。

学級担任等が自分の国のあいさつを知っているだけで、保護者の方はとても安心した表情をします。

ゆっくり外国人保護者の方と話す機会をもちましょう。

片言の日本語でも、お互いに気持ちが少し伝わったと感じられた経験が、その後の信頼関係につながります。長期休業等を利用して、家庭訪問などを行ってみてはいかがでしょうか。

Q1－4　あまり日本語が得意でない保護者とコミュニケーションをとるには、どうしたらよいですか。

A　基本的には、保護者の日本語のレベルによって、コミュニケーションの方法は変わってきます。保護者の日本語能力を把握し、必要な情報が保護者に確実に伝わる方法を工夫する必要があります。

ほとんど日本語が理解できない場合は…

・通訳をお願いする。
・英語でコミュニケーションを図る。
・文書については、英語や母語に翻訳したものを渡す。

文部科学省
「かすたねっと」には、多言語に翻訳された様々な文書があります。
http://www.casta-net.jp/

ある程度日本語が理解できる場合は…

・文書等の大事なお知らせには、赤ペンで印を付ける。
・プリント類の漢字にふりがなを振る。
・特に読んでほしい箇所に赤ペンで下線を引く。
・プリント類の代わりに、ひらがな書きの簡単なメモを渡す。
・連絡帳は、保護者の日本語能力に合わせてひらがな、カタカナで書く。
・わかりやすい日本語で書き、メールやショートメール、FAX を送る。

コラム

やさしい日本語をつかってみましょう

北海道教育大学函館校准教授　伊藤　美紀

近年、様々な場面で「やさしい日本語」が使われるようになってきました。はじめは外国人への被災時の情報伝達が目的でしたが、今は、外国人介護士とのコミュニケーション等にも応用されています。年少者日本語教育の分野でも「リライト」教材といって、やさしい日本語に書き換えられた教材も出版されています。

この「やさしい日本語」を、外国人保護者の方々にも使ってみてはいかがでしょうか。みなさんが小学１年生に話しかけるときは大人に話す時と少し違う話し方をすると思います。同じ様に、外国人保護者の方々にも話し方や伝え方を工夫してみると、日本語でも意外にコミュニケーションがうまくとれることがあります。はじめは外国語としての日本語を意識しながら上手に言い換えるのはなかなか難しいかもしれません。まずは、ふりがなを付ける、どうしても読んでほしいところに印を付ける、お便りの右上に、重要度マークを付ける等からやり取りを始めてみるとよいと思います。